

## 7. 都市機能の集積と交流・連携の促進

本町の都市機能の集積と交流・連携を、拠点や軸で明らかにすることによって、メリハリのある個性的なまちづくりを展開するとともに、効率的な施策の展開を図ります。

### 都市拠点

#### ● まちの拠点

役場庁舎や図書館、病院、商業・業務施設などが集積する「祝園駅周辺」を位置付け、町の中心機能を担う拠点として機能の充実をめざすとともに、学研都市への玄関口として、その役割の強化を図ります。

#### ● 学研の拠点

学研都市の中核施設であるけいはんなプラザ周辺を位置付け、学術研究や文化を発信し、人や情報の交流が生まれる機能を担うとともに、研究成果から新産業を生み出す拠点として、学研都市の機能発揮を図ります。

#### ● 地域の拠点 (北部・南部の拠点)

交通結節点である狛田駅周辺を「北部拠点」、山田川駅周辺を「南部拠点」と位置付け、北部地域・南部地域の日常的な商業機能と交流機能を担う拠点にふさわしい環境整備を図ります。

### 都市軸

#### 都市シンボル軸 (南北軸、東西軸)

本町の骨格となる軸として交通基盤の充実を図り、交流・連携機能を強化します。特に、学研都市間の連携を強化するために、「山手幹線」の延伸や「精華大通り線」の延伸について、早期の整備促進を図ります。

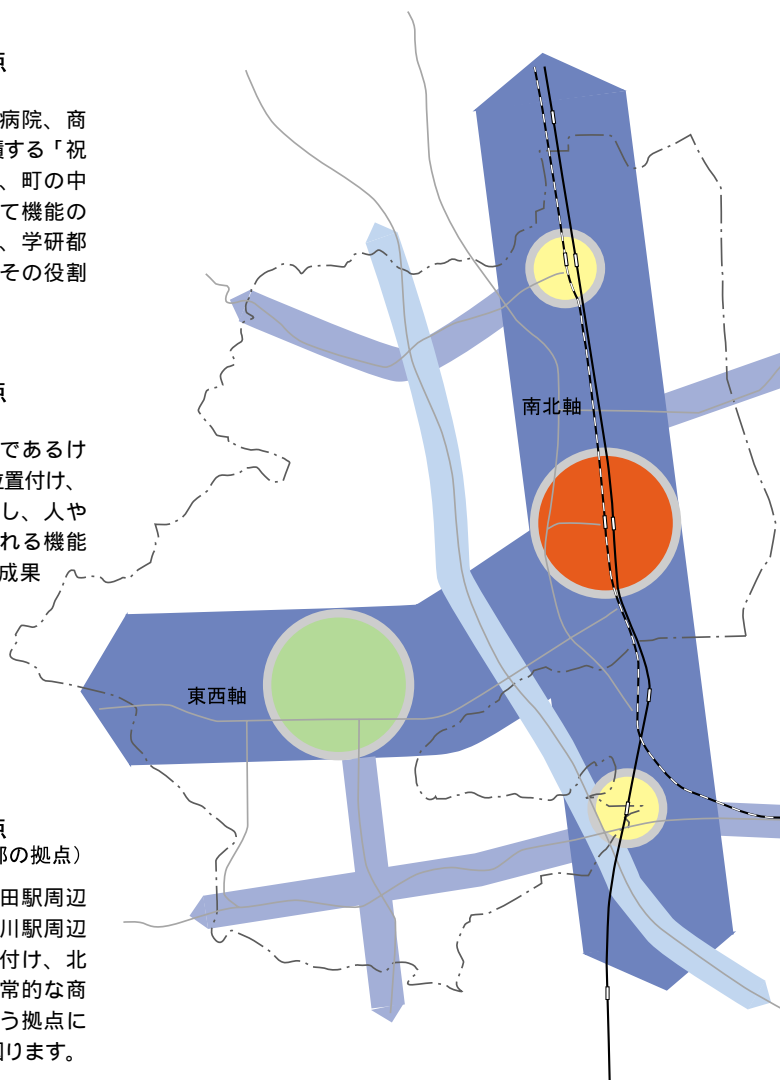
また、沿道には多様な都市機能が集積することによって、軸に沿った交流と連携のにぎわいを生み出し、町の骨格となるシンボリックな空間をめざすとともに、その景観形成を図ります。

#### 広域交流連携軸

京奈和自動車道を位置付け、京都市や奈良市など府県を越えた広域の交流・連携強化を図ります。

#### 地域間交流連携軸

国道163号、奈良精華線、枚方山城線、(仮称)南田辺大通り線をそれぞれ位置付け、交通基盤の充実を図って、近隣市町村間の交流と連携強化を図ります。



都市機能の集積と交流・連携の概念図

### <公共交通の充実>

都市機能の集積と交流・連携を強化する手段として、公共交通の充実を図ります。

- ・ 京阪奈新線の整備促進
- ・ 新しい交通システムを利用した移動手段の検討
- ・ JR学研都市線の複線化や増便に関する働きかけ
- ・ 町内や近隣市町村、奈良県側などとの公共交通ネットワークの整備促進
- ・ 町内での公共交通体系の確立
- ・ 高度道路交通システム (ITS) の実用化実験の促進 など